

協会だよりー0203(3月号)

2・【トピックス】:

●● 第40回JSCRA会の開催

日時：令和2年3月17日(水)

場所：筑波カントリークラブ

参加者：17名 5組

● 第6回運営委員会・懇親会の開催 今期最終回

日時：令和2年3月19日(木)

場所：ユミコアジアジャパン株式会社 会議室

住所：東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル26階

議題：令和2年度活動内容について

● 2019年実績報告書の作成並びに調査員会の開催

日時：3月3日(火) 15:00-17:00

場所：新橋駅前ビル1号館 ビステーション会議室



- 一. 協会よりのお知らせ
- 二. 「トピックス」
- 三. 「実施済事項」
- 四. 「予定事項」
- 五. 「その他・会員情報」
- 六. 「事務局より(3月度の予定)」
- 七. 「故郷上田について」 市村光志氏

写真左から 林副会長・安田会長・新村直弘講師・原田幸明講師・永井副会長・込宮司会者

JCRA (Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

3. 【実施済事項】

① 協会だより0202年（2月号）をHPに更新・各会員並びにOB各位に配信

② 【会員専用HPの更新】

● 2月度の経費明細

● 第243回月例会（講演会・新年会）の実施

● 第243回月例会（講演会・新年会）の写真PDF公開

③ 第243回月例会（講演会・新年会）の開催

2月7日如水会館のオリオンの間にて「講演会」と松風の間にて「新年会」を開催しました。講演会の参加は企業数36社、マスコミ3社、参加人数は61名と盛況となりました。

新年会は合計来賓を含めて62名。来賓では経産省製造産業局素材産業課課長補佐である高橋朝子様よりスピーチを頂きました。（写真）



講演会は新村直弘講師「2020年の資源課資源価格見通し」と原田幸明講師に「持続可能な資源循環への道」についてのテーマで講演をして頂きました。

今回新宴会での講演としては協会として初めて外部から講師をお招きしての開催となりました。御二方は著名人でお忙しくお時間を頂き感謝に堪えません。正会員のユミコアジャパン株式会社と賛助会員IRUNIVERSE株式会社から紹介を頂きましたので御礼申し上げます。講演概略をIRUNIVERSEの記者福井貴久子様から投稿を頂きましたので3～4ページに記載致します。

4. 【予定事項】

① 協会だより0204（4月号）の発行

② 会員専用HPの更新

③ 2019年触媒資源化実績の編纂と調査委員会の開催

④ 第40回JSCRA会の実施

⑤ 第6回運営委員会・懇親会の開催

5. 【その他・会員情報】 特になし

6 . 事務局（3月度の予定） 出勤予定●：9日間

出勤予定日：3日(火)・5日(木)・10日(火)・12日(木)

17日(火)JSCRA会・19日(木)運営委員会

24日(火)・26日(木)・31日(火)

<第243回月例会 講演会まとめ>

演題：「2020年資源価格見通し」

講師：(株) マーケット・リスク・アドバイザー 代表取締役 新村直弘氏



TV 東京「モーニングサテライト」の市場価格リスク専門家としてもお馴染みの(株)MRAの新村直弘氏をお招きし、新型コロナウイルスの影響を含めたマーケット予測について解説していただいた。

2020年の景気は、2年ごとに谷と山の周期からすると「底」になる可能性がある。メインシナリオでは、それほど景気減速にならない見通しだが、新型コロナウイルスの影響で2月中に全く中国が稼働しない場合、経済成長率は5.5%までに落ち込み、世界経済が0.1%か0.2%に下がるとIMFは見ている。新型コロナウイルスの終息が8月頃だとすると、景気回復は2022年以降になると思われる。

米中通商対立では、高関税が中国の景気低下に大きく影響している。加えて人口ボーナス終焉による生産年齢人口の減少で景気も減速。人民元安が続くと、中国の個人投資家が国外へ投資し、民間企業の資金ショートを招く恐れも。これが近隣諸国へ工場を移転する動きを強めることにもなり、中国はなかなか厳しい状況におかれていると言える。

1月末にブレクジットした英国の今後はかなり厳しく、これを引き金に欧州全体の景気が悪化することが懸念される。今後、中国に代わって世界の経済をけん引すると見られるのは、人口ボーナスがこれからのインドである。

2020年の主要商品価格見通しでは、金は、新型コロナウイルスのリクスプレミアムがのって220ドル上昇。金融緩和で金利が安いことが影響していることなどが解説された。

【講師プロフィール】

1994年東京大学工学部精密機械工学科卒。

日本興業銀行入行、本店金融市場営業部でコモディティ・デリバティブ開発を担当。国内製造業、金融機関をはじめ幅広い業種に対する価格リスクマネジメントの提案業務に従事。その後、パークレイズ・キャピタル証券、ドイツ証券に転職。

2003年より価格リスクマネジメントに必要な情報を幅広く提供することを目的にアナリスト業務を開始。テレビ東京やNHK、日経CNBC等でコメンテーターを務める。また週刊ダイヤモンドや日経新聞、東洋経済、エコノミスト等のメディアにも多数寄稿。

2010年5月、企業向け価格リスク制御のアドバイスを専業とする株式会社マーケット・リスク・アドバイザーを設立、代表取締役に就任。

2012年6月、商品市場動向分析を専業とする株式会社MRAリサーチを設立、代表取締役に就任。日本アナリスト協会検定会員、資源エネルギー学会会員

著書：

『調達・購買・財務担当者のための原材料の市場分析入門』（ダイヤモンド社）

『コモディティ・デリバティブのすべて』（きんざい）

『天候デリバティブのすべて—金融工学の応用と実践』（東京電機大学出版）

演題：「持続可能な資源環境への道」

講師：(国研) 物質材料研究機構 名誉研究員 工学博士 原田幸明氏



東京オリンピック 2020 のメダルを、リサイクル金属から作ることを始めに提唱された原田幸明氏は、世界の金属資源が不足してくる今後の状況とサーキュラーエコノミーと「第 4 次産業革命」について熱く語った。

2000 年以降、金属価格変動が著しくなったのは、中国をはじめとする新興国の経済発展と技術イノベーションによるレアメタルなどの必要性が拡大したためだ。今後、危機的不足と見込まれるのが金、銅、鉛、亜鉛、プラチナなどである。2100 年には途上国でもスマホ利用が広がるようになり、金属不足は深刻。リサイクルで賄わないと成り立たなくなる。

リサイクルの定義も変わる。リペア、リビルド、リマニュファクチャリングとリユースを行った上でリサイクルすることが、モノの価値を十分に引き出す上でも、事業の収益面からも有益であることが明らかだ。

これからの社会は、効率的に資源を循環させ、モノを管理して回すことが主流になるだろう。モノからコトへの「第 4 次産業革命」は、製品を所有する価値からシフトし、機能と利便性、サービスとしての価値に対価を払うようになる。

リサイクル業界も、資源としての価値を取り戻すだけでなく、材料として再利用できる技術価値を提供するようアップデートしていくこと。これがサーキュラーエコノミーを実現するために必要とされている。

【講師プロフィール】

1979 年 東大大学院 博士課程修了（工学博士）

科学技術庁金属材料技術研究所入所

1998 年より現在 法政大学 非常勤講師

2002 年～2006 年 物質・材料研究機構エコマテリアル研究センター長

2007 年～2009 年 材料ラボ長 兼 元素戦略クラスター長

2009 年～2010 年 元素戦略センター長兼環境・エネルギー材料萌芽ラボ長、材料信頼性萌芽ラボ長

2011 年 元素戦略材料研究センター 元素戦略調査分析統括グループ長

2012 年～2014 年 東北大学客員教授

2012 年～2017 年 物質・材料研究機構 特命研究員（元素戦略）

2016 年 3 月より現在（一社）サステナビリティ技術設計機構代表理事

2017 年 物質・材料研究機構 アドバイザー、京都大学客員教授

2017 年 4 月より現在 芝浦工業大学 非常勤講師

2017 年 3 月より現在 物質・材料研究機構 名誉研究員

《後記：アイアールユニバース株式会社 取材記者 福井 貴久子様》

【信州上田とはどんなところ？】

シリーズ第五回（最終回）

2-3 日本の真ん中

いろいろな町が我こそは日本の真ん中と言って自慢しています。上田も負けてはいません。（看板上部に“日本中央”と記されています）

神武天皇一行が高千穂峰を出て大分県美々津湾を出発し、幾多の苦難を経て大和に入り奈良に大和朝廷を築いた事は、記紀の中に詳しく述べられている通りです。ほぼその頃に大和朝廷親族の一部が分かれて、この上田に拠点を構えます。何故こんな信州の山に囲まれた上田が選ばれたのか小生には未だ分かりません。しかしその王族が神をまつり信仰してきたのが、この生島足島神社です。生島神、足島神は共に国を興す神として全国にありますが、両神を一緒に奉っているのはここだけと聞いております。

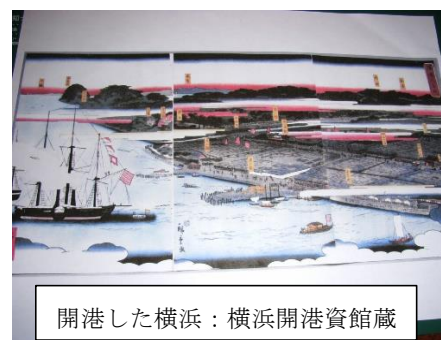
その事を裏付けるのがこの信号表示です。この辺りは古安曾の岡といいますが、この安曾はもともと九州阿蘇山の阿蘇だったのです。阿蘇から来た一族の信仰の対象が生島足島神社だったのです。（これは小生の独り言でなく、信濃国分寺資料館の資料に基づいています）

更に時代は下がって、天武天皇が飛鳥に都を築きますが、その時第二の都をこの上田にしようとした文献もあると聞いています。どうしてこう言う判断がなされたのか今後の研究が待たれます。本州のほぼ真ん中と言う地形の理由だけでなく、大和朝廷の親族が上田に拠点を築いた事などを挙げると、小生は正に上田は日本の中心だと思って居ます。自慢話ですいません。



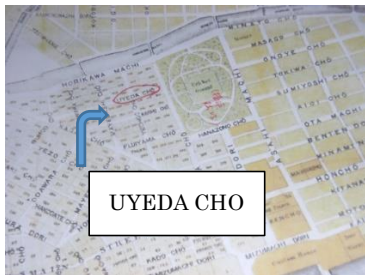
2-4 上田は信州の横浜

幕末に活躍した老中松平忠固（ただかた）は、もともと姫路の生まれでしたが移封され上田藩主となります。忠固は開国主義でしたので鎖国が続いている中でも将来輸出の中心になる事を確信し、上田では盛んに養蚕が行われていました。忠固の上司は大老井伊直弼です。時は1858年（安政5年）6月。米国ハリスが通商条約締結を迫って下田に亭泊していました。直弼が天皇に事態を説明する為京都に出向いているタイミングを狙って、忠固は江戸城で会議を開き一気に条約締結を決議しハリスにその署名文書を渡します。直弼はその事を聞き早馬で江戸に戻りますが後の祭り。忠固は即塾居



開港した横浜：横浜開港資料館蔵

となり、その後原因不明で亡くなります。48歳。直弼の差し金ではと思いますが未だに死亡原因は分かっていません。その後安政の大獄・桜田門の変など国内は荒れますが、国は開かれ外国との取引が始まります。



この時日本から輸出されたもの（海外から見て買いたい物）のトップは生糸でした。開港を見据え着々と生糸生産に力を入れていた上田藩はこの期に多量の生糸を横浜から輸出しました。その繁栄を示すものが1889年の英語版横浜地図の中に“UYEDA CHO”という町名として記録されています。（矢印の所）



更にこの流れは明治に入っても続き輸出品の主流は生糸から蚕種に変わってゆきますが、品種改良を進めた上田産の蚕種はヨーロッパで大変な好評を得ます。その代表例が“青白”と言う品種です。このラベルがイタリアの博物館に展示されていました。

外国から買い付けにバイヤーも沢山上田に来ていました。その人達や改宗した日本人の為にキリスト教会も早くから作られ、この写真にありますように明治九年には長野県で二番目に早い教会が出来ました。この教会は今でも使われています。



一方養蚕の仕事には資金が必要です。蚕種を購入し繭・生糸にするまでには半年の時間がかかります。その運転資金が必要になります。その為の銀行類似会社は明治17年までに長野県では107社が設立され全国1位となりますが、その7割近くは上田地域にありました。いかに養蚕業が盛んであったかを示しています。勿論それらの銀行は現在では1行に統合されました。この他養蚕で蓄えられた財力がいろいろの所に使われ、今日でもそれが活かされています。“お蚕様”と言う名の通り上田の現在あるは、この養蚕での繁栄のお陰と言っても差し支えないと思います。

これまでつたない文章に我慢してお付き合い頂きました協会の皆様に改めて御礼申し上げます。もし今回の投稿で皆様と上田との間にご縁が出来ましたらこれに優る幸せはございません。

有り難うございました。

文責（市村）

以上